

第1回 周防大島町学校跡地施設利用検討委員会（旧森野小学校）会議録（要約版）

1 日 時 令和5年10月23日（月）9時30分から14時20分まで

2 場 所 東和総合センター 大ホール

3 出席状況 欠席者1名

4 資 料

- (1) 学校統合に伴う廃校舎等利活用募集要項
- (2) 学校配置図及び平面図
- (3) 事業計画書等
- (4) 財務分析結果

5 内 容

- 会議については、応募者の管理運営に関するノウハウ等が含まれているため、非公開とすることに決定した。
- 応募者からの事業説明、質疑応答後に意見集約を行った。
- 意見集約後に当委員会としての採択案を決定する投票を行った。

6 質疑応答

(1) A者

(委員) 常時開設するのか。収支計画の中に講師給料等があるが、そこで働く、会社の方が常駐するのか。

(A者) はい。スクールを開催するだけでなく、練習場としても活用したい。スクール事業に関しては年間計画を立ててその時期に開催する。それ以外の時期については有効活用するために練習場所として時間貸しをする。

(委員) ドローンを飛ばすことに関しての許可。町にも関係してくると思うが、どれくらいの高さまで飛ばす必要があるのか。あと国家資格の試験場としても考えているということで、その許可関係について説明してほしい。

(A者) スクールでは目視内で許可が必要ない範囲で収めたいと考えている。地方自治体との連携でいうとそこは話し合いながら進めていくことになると思うが、基本的に学校の中は第三者が入って来ないため、その空間の中で収めることを前提に考えている。高度に関しては149m以下で行う。150m以上になると許可が必要になる。リスクのあることはしない。農薬散布の訓練の際は、実際に農薬をまくのではなく水をまく。

(委員) 授業のカリキュラムはどのようなスケジュールになるか。

(A者) 現時点ではまだ仮。日数や金額はこれから具体的に調整していく。ドローンに関しては航空法、法律が全く分からない人と経験されている人では知識の差があるためその辺りを加味して商品提供したい。

(委員) ドローン学校を開催するにあたって、周辺にそういう学校、競合はあるのか。お客さんに来てもらえるニーズはあるのか。

(A者) 学校は下松と光に1校あるが、そこは資格を取るための学校。そこから訓練、産業や仕事で

活用するための学校という周辺には無い。農薬散布をするというような一つの訓練はなかなか無いので、そういうところがニーズの掘り起こしとしてはこれから高まると考えている。集客の部分でいうと島の方、大島、柳井の方がメインになってくると思う。近距離のところから信用を積み重ねて事業としてしっかり認知してもらい、ここに通う人を増やしたい。大がかりな宣伝を打つのではなく、信用を積み重ねて口コミで広げていくということを考えている。また元々道路舗装等をしているため、建設会社や不動産経営者、個人的なつながりでこの辺の農業をしている方の知り合いも多いので、そういった方々に向けてお声がけをしていく。

(委員) 収支計画の2028年の雑収入でマイナス2,000万円というのは。

(A者) 融資を受けることを前提に考えているのでその返金の金額。

(委員) 2028年に2,000万円一括で返済するというのか。

(A者) はい。

(委員) この事業で地元の雇用はどの程度考えているか。あと、ドローンを使って周防大島町をPRしていくという話があったが、具体的にどのようにするのか。また、スクールを開校するにあたって合宿、集中授業も考えているのか。

(A者) 地域の旅館等と提携していこうと思っている。スクールの形態については、日数のある程度限定してベースにあるカリキュラムを提供して、そのあと練習ができる環境を作りたい。合宿という形で旅館を借りてというやり方も一つのやり方として考えている。地元の雇用に関しては、周防大島町の方々のドローンの認知がどこまであるかまだわからないが、人が危険と言われる仕事を安全に代えられるというのがドローンの強み。こういった事業が若い方々、特にゲームとかそういうことに需要がある方は、ドローンの操作はラジコンとかそういうことに似ているので促していければと考えている。地元の方に向けたドローン体験会等もできればと思う。周防大島町のPRに関しては、一般的な言い方になるが景色がきれいで、ドローンは上から見る景色が違う角度で見られると好まれる方が多く、そういうドローンを使ったコンテスト等をするのも一つのやり方かと思う。

(事務局) 地域からの要望が2点あったため確認したい。今の話で校舎の一室を宿泊関係にすることは無いということによいか。

(A者) 使い方を含めて検討していきたい。合宿形式にする場合、当然宿泊を考えていかないといけない。

(事務局) 町内の宿泊施設と提携してという前提で、校舎を改修するというのは無いということによいか。

(A者) 食事は提供できないため、素泊まりで寝泊まりをしてもらって次の日講習を受けてもらうということを検討していきたい。

(事務局) 地域住民が一室を交流の場として利用することや避難所として使うことは可能か。

(A者) それは全然構わない。

(事務局) 事業者から一室だけを事務所として利用したいという希望があった場合、1教室だけの賃借は可能か。

(A者) 可能。とにかくドローンが飛んでいるところを人に見てもらいたい。

(事務局) グラウンドで飛ばしているときに国道、民家に落ちる想定は無いのか。そういう場合の保険は。

(A者) 収支計画の説明で省いてしまったが、電気代、ガス代の下にある保険料というのが賠償責任

保険。第三者に対する保険となる。

(2) B者

(委員) ○○の方は現在何名で運営しているのか。

(B者) ゲストハウスのスタッフとしては5名。母体となるまちづくり協議会は12名で構成している。月1回、12名で進捗やどういった方向で行くかを審議しながら、宿泊業は5名で回している。

(委員) レストランは宿泊以外の方も受けるのか。

(B者) オープン当初は日帰りでのジビエのランチや夜の日本酒バーのようなものをやっていたが、いつお客さんが来るかわからない状況でスタッフを確保することが非常に困難だった。宿泊だけに絞れば予約があった日にだけスタッフを送り出すことができるため、今は宿泊での飲食提供に絞っている。

(委員) 同じようなイメージでこちらでも廃校を活用するのか。そのスタッフはこちらで雇用を考えているのか。立ち上げのときはどうするのか。

(B者) はい。地元の雇用がベスト。立ち上げのときは、スタートの前から募集をかける。

(委員) ○○県であればサービス業のスタッフの確保が比較的容易かもしれないが、こちらではなかなか。

(B者) 私たちのスタッフは業者ではなく地域に住んでいる方々だけで構成している。周防大島にいる方で手伝ってもらえる方を集めてスタッフとして回せていければと思っている。

(委員) 人件費49万円というのはその方々に充てるのか。

(B者) はい。正社員でマネージャーという形で常に常駐できる方、住み込んでもいいのでという方に月給を支払ってという考え。

(委員) 例えば最初の3ヶ月とか半年、運営がスムーズに行くまではお二人がこちらに常勤するイメージか。

(B者) 私と統括をやる人間がいる。

(委員) 気になったのが支出の方で水道光熱費と人件費、仕入れその他ということでざっくりすぎるかと。通信費や消耗品等はどのくらいの見込みか。

(B者) どうしても見えない部分が出てくるが、宣伝広告費は基本的には今の時代お金をかけずにできる。やればYouTube広告とか上限無くできる。基本的にはSNS。○○では検索キーワード、SEOというか、そういったものの日々のブログの発信だったり、インスタグラムを使った発信で広告費は使っていない。特に廃校をリノベーションした施設に泊まりたいという一定のマーケットがある。そういった方が一回泊まると次はリピーターに団体客を連れて来たり、地元の小学生のスポーツ合宿に来たいと、レポートでほとんど事業が回る形に最終的にはなっていくと思う。

(委員) 既に実績もノウハウも持っているのだから、こちらのお客さんをお繋ぎするとか、そういったことも考えているのか。

(B者) はい。今やっているところは限界集落で町民300人くらいしかいないところで65歳以上が8割というところでもわざわざ○○から2時間かけて来てくれる。こちらは元々観光地なので観光客を含めて広げていければと思う。

(委員) 一番期待しているのは合宿ニーズか。それとも先ほど言った廃校好きか。

(B者) 合宿が圧倒的。あとイベント。合宿は一度決まれば毎年リピートしてくれる。一つの団体が貸し切れるというところがある。他のグランピング施設、キャンプ場、ホテルがあるがその施設

を一つの団体が貸し切れるところはなかなかない。全国的にも珍しい。そういったところをPRしていくとお客さんが喜んで、気兼ねなく泊まってもらえると思う。

(委員) ジビエで鹿肉の話が出たが、地産地消だけではなくそちらで獲れた食材を提供したりするのか。

(B者) 私自身も無農薬でお米を作ったりしているので提供したり、逆にこちらのものを〇〇県に持って行って使いたい。特にジビエにこだわっているのは、こちらは魚が主と思うが、調理スタッフの専門性や知識、仕入れに係る知識が大変。ジビエは冷凍すれば保存が効き、学校は避難所になることが多い。食材のストックもできる。冷凍できるジビエを使う方がよいと考えている。

(委員) 事業計画を見てすごくワクワクする、数字も堅実的でした。宿泊業ということで割と資金力が必要と感じるが、本業は何をしているか。

(B者) 一番大きな収入源は株式投資。13年くらいやっている。プロとしてやっている。あとは講演依頼があるのでその講師料の収入がある。以前は貿易業をやっていたが、今はほとんど行っていない。

(委員) 投資が最初に出てきたのでメインは投資だと思うが、最近の2、3年の収支の状況はどうか。

(B者) 当社は今で3期を迎えている。

(委員) NPO法人〇〇とは会社は別に分かれているのか。

(B者) 別です。業務委託という形で最初からずっとやっている。ここでは副代表で入っている。

(委員) 事業の内容をいろいろ聞いて可能性のある事業ではないかと思う。スタートアップ企業の誘致というは業種とか何か決めているのか。どういう業種でも問題ないのか。

(B者) はい。

(委員) 図面で1階に自主避難所がある。大規模な災害があった場合、町と連携して協定等を結んだ上で2階のスペースも避難所として使うことは可能か。

(B者) 提供する。実際に〇〇小学校の方でもあって、体育館や教室を開放した。よく公民館とかが避難所になっているが、地元の方に聞くと電気も点いてなくて暗くて、行きたくても行きにくいという意見だった。僕たちは宿泊場で電気も全部点ければ明かりも取れ、人が集まりやすい環境になっている。

(委員) 改修工事が2ヶ月とあるが、経験上これくらいの感覚か。短いような気がする。

(B者) 元々の学校のスタイルを残す。一番かかるのは水回り。2ヶ月あれば間に合うと思う。3ヶ月、4ヶ月かかったとしてもそれほど大きな影響は無い。4月から工事が始まると思うが、7月、夏場に備えられればと思う。

(委員) 常駐社員1名とあるが、森野小学校の中に住むのか。それとも違うところに住むのか。

(B者) そこは希望者に任せる。一応スタッフルームという形で提供するが、外に住みたいというのであれば、外に近くに住んでもらう。

(委員) 夜に無人にならない可能性もあるのか。例えばアパートを借りるとなると夜8時以降は無人になる、次の日の朝まで無人になるということか。

(B者) 基本的に自分かもう一人二人神戸からスイッチして来られるようにしているため、自分もしくは別のマネージャーが泊まるようにする。

(委員) 合宿のときに夜誰もいないということはないのか。

(B者) 誰かがいる。

(3) C者

(委員) 最初の2年間は屋上を使ってのグランピング施設ということで土曜日だけの営業、夏休み、冬休みの営業ということだが、それ以外の日は無人になるのか。

(C者) 土曜日が一番宿泊が入りやすい。弊社が運営しているコテージも土曜日は空室が無い状況。基本的には平日も使える状態にしたい。平日でご予約がいただけたらそこで宿泊を受ける。

(委員) 雇用された方が予約に合わせて勤務するのか。

(C者) 基本的にはそのような形になる。

(委員) バーベキュースペース、カフェは3年目からと計画にあるが、これは地元の方も利用できるのか。また、イベントは地元の方を含めてイベントを開く予定なのか。年間どれくらい開く計画なのか。

(C者) バーベキュースペース等は地元の方に大いに利用していただきたい。宿泊で来られる方、地元の方含めて対象として営業する。イベントに関しては、大々的なイベントは18ページにあるように、5年目以降に開催できれば。最初は年1回。それを毎年続けて、少し小さいイベント、例えば体育館を使ってコンサート等は随時というような形で考えている。

(矢原委員) 宿泊の稼働日数は当初年間55日、飲食部門も同じような感じで計画されている。通常の宿泊でいくとディナーが付いていたりすると思うが、これは無いという考えか。

(C者) 当初2年間はバーベキューコーナーで機材の提供はするが、基本的には食材は持ち込みで、地元のスーパーで購入していただいてバーベキューをしてもらう。弊社で体制が整ってきた3年目以降に食材の提供、カフェの提供をしたい。1、2年目も弊社が保有しているキッチンカーでスイーツの提供は、宿泊者向けになるが提供していきたい。

(委員) 資料2ページの「〇〇」はいつから運営しているのか。宿泊事業はほかにしているのか。

(C者) 2021年10月からスタートしている。ここが初めての宿泊施設。

(委員) 4ページでいろいろな施設を予定している。それぞれのオープン予定はいつか。

(C者) まず、3ページにある「〇〇」は2024年4月オープン予定。「〇〇」から歩いて行ける距離に土地があり、そこは取得済みで、今建築士と設計打合せをしている。1年以内に稼働したい。あとは3年以内くらいで着工できればという思い。

(委員) 宿泊ヴィラ、宿泊コテージ、みかん畑等の「〇〇」周囲が1年以内か。

(C者) 宿泊ヴィラ、コテージに関してはリフォームに入っているもの、更地のものがある。12ヶ月以内に営業開始するもの、3年くらいかけてやりたいものなどばらばら。

(委員) 資料の24ページで「インバウンドを含めた」とあるが、この島へのインバウンド人数とターゲットの想定はあるのか。

(C者) ファミリー層に向けた施設づくりをテーマにしている。外国人の中でも多少長期で旅行される方、地方に行ってみたいと思う方をターゲットにしたい。

(委員) 御社がある広島は中国地方ではインバウンドの先進地だと思うが、その繋ぎ込みは想定しているのか。例えば、広島、宮島のニーズのインバウンドのお客様を周防大島に送り込むなど。

(C者) 宮島に観光客が来ることは多い。宮島は位置的に周防大島寄りのため、旅行会社と連携してツアーを組んでもらえれば良いと思う。

(委員) 5ページの一番下「事業の特徴、地域への波及効果等」の③移住者の促進とあるが、この施設による移住者の促進というのは何か具体的なことがあるのか。

(C者) 宅建業の資格があり、中古の不動産の情報を随時見ている。そういうものを掲載、施設の中

のインフォメーションコーナーの中に掲示して、質問があったときにそれをおすすめすることを考えている。

(事務局) 地域住民の交流の場、避難所として教室を開放することは可能か。

(C者) 16 ページの校舎内施設配置の右下にフリースペースを設けている。ここで地域の方とコミュニケーションであったり、くつろげるように自動販売機を置いたりして地域の方にも活用してもらいたい。

(事務局) 空きスペースで1部屋を使いたいという相談があったとき、個人の事業者に対して教室をレンタルオフィスとして貸すことは可能か。

(C者) 悩ましいところではあるが、お子様がたくさん来る施設のため、安全対策等を踏まえるとその辺の管理が不安。今の段階では難しいと思う。

(事務局) 移住のためのお試しで島内に連泊したいという場合、安価な金額設定ができるか。

(C者) もちろん可能。

(事務局) 施設整備の関係で、食材の提供にも関連してくるが、準備段階の計画に水回り、トイレや風呂、シャワーの改修が入ってないが、それは3年目以降採算が取れるようになってからという考えか。

(C者) 初年度から2年目に関しては、なるべく校舎を改装しない。基本的には屋上にトイレとシャワー室を設置したい。3年目から施設の中を改修して使いたい。

(事務局) 屋上に仮設のトイレやシャワー室を置くということか。

(C者) はい。

(事務局) 準備年の初期工事、初期設備は全て自社資金か。

(C者) 基本的に取引先の銀行から借入れをして自社の資金でまかなう。19 ページの下に書いておるとおり改修内訳でそれぞれこれくらいかかる。最初は屋上グランピングだけで2,000万円くらい必要と考えている。

(4) D者

(委員) ドローン特区というのは、町と提携しながら申請を出せば必ず通るものなのか。それとも難易度があって、基準が高いものなのか。

(D者) まず地域の認識と了解をいただく。それから町と一緒に前向きにやっっていこうとなればハードルはそこまで高くない。ドローンを飛ばすということについて地域の方の考えがそれぞれあるため、安全に飛ばすということを前提に、こういう特区を目指すということを提案すれば、だいたい1年から2年で特区の申請は通るのではないかと考えている。

(委員) ドローンを飛ばす方は来ていただけだと思うが、限られていると思う。それ以外のドローン特区になることによるメリットは地元にあるのか。

(D者) 最大のメリットはドローンを飛ばす方がSNSに出すこと。この景色はどこなのかということ注目度が上がる。周防大島町の周防大島の方しか知らない、周防大島の方も空から見たことがないというところの発信をそれぞれ皆さん、発信が好きな方がほとんどなので、その発信力はCMを流すとかのレベルとは違って相当な威力があると思う。ドローンは元々蜂の羽の音が発祥。例えば、周防大島町の中で養蜂をやられている方の新しいお土産を作るなり、そういう効果も出てくると思う。今考えているのは、ドローンで撮影しに来た方が、いろんな場面、冬の大島、夏の大島、秋口の大島を撮りに来られるだけで島に来る人数は圧倒的に増えてくると思う。当然、

宿泊される、滞在時間が長くなることでお金が落ちることに期待している。山口県でドローンの撮影で特化しているのが角島。角島の橋はほとんどの方がされていて、周防大島のネットで配信の映像を見るとほとんど地上。ドローンで撮ったいい映像がないということはまだまだ伸び代がある。

(委員) ○○県の○○町は 2015 年に認定されてから観光や交流人口が増えたという具体的な効果は出ているのか。

(D者) 直接○○町にアプローチをしていないが、ネット上のニュースとか新聞の記事を見る限りは増えている。町に来る人数は圧倒的に増えていると思う。経済効果があったかどうかということについては、まだ調査が足りていない。○○県の○○町は山のど真ん中、高速道路から車で 15 分、20 分行ったところ。そこも小学校が廃校になり、2020 年の 3 月からうちの協力会社が廃校利用して、農業ラボやドローン、いろいろそういう体験や宿泊をしている。夏場の 1 日の来場者数は 100 人くらい。お盆前後で毎日。冬場になると雪が 1 m 積もるので 12 月頭から翌年 2 月までは閉館。地元のお米を炊くイベント等もやっていてドローンを持ってくる人が非常に多い。

(委員) 農業ドローンの講習 5 日間等あるが、農薬を散布するドローンは相当大きいと思う。どれくらいうるさいのか。

(D者) 大型のドローンは確かに音がするが、小型のドローンの金属音とは違い低音で割と滑らかな音しかしない。耳につく音は無い。美祢等で散布の依頼を受けるが、朝の 7 時半くらいからまいても近所から苦情が出たことは無い。

(委員) 資料の 6 ページで国家資格の免許センター山口校と岡山校。権利を持っているというニュアンスの言い方だったが、これは認定機関の更新があるのか、山口県では 1 校だけとかそういうルールはあるのか。

(D者) 民間の講習団体は全国に何百か所とある。国家認定を講習できる団体として、今全国で 100 ヶ所くらいある。日本航空機免許センターというのは、東京が本部で各県に 1 つないし 2 つしか認定を出さないという団体。それにあたって民間のインストラクターの経験値として 200 時間以上のパイロットの経験があつて、100 名以上受講をこなしたという条件のインストラクターが 3 名以上いないと許可を出してくれない、ハードルが高い団体。うちは今その条件があるのが 7 名いる。3 名は岡山、4 名は山口。今年 2 名取りに行ってもらって、もう 2 名取ればすぐに島根校をオープンするという準備。いろんな団体があるが、うちの強みはまず DJI の代理店であること。日本で一番売れている機体は DJI 社製のドローン。それとドローンを使った測量や映像撮影、農薬散布を業務としてやっているため、ただドローンを飛ばすだけの教習場ではなく実務に直結したような作業を全部教えられることが強み。

(委員) 国家資格の免許センターというのは基準を満たしていればずっと保持できるのか。

(D者) 国家資格の団体は 2 年に一度監査がある。第三者の監査団体がそれぞれの講習機関に行つて、インストラクターのスキルがどのくらいなのか、ちゃんと講習しているのか、受講生の事故率によって指導が入ったりする。ドローンを飛ばす方に認証番号、機体に機体番号があり、今上空に飛んでいるドローンは誰が飛ばしているというのは国交省が全部把握できるようになった。去年の 12 月から。例えば私が飛ばしているドローンが落ちた、事故を起こしたとなると、私に免許を JULC のどこの学校が取らせた、誰が教官だったのか全部紐づけができるようになっている。事故率が多い学校については監査で厳しい指導が入り、閉校か、教官の入れ替えかという条件が付いてくる。今 400 人弱講習をしているが重大事故は 1 件も起きてない。うちはお客さんにとつ

ては割と厳しい講習という悪い風評が立っている団体。

(委員) 既にすばらしい知見、実績をお持ち。9ページにあるようにドローン資格取得講習をされて、ドローン特区を受けて、無人航空機でラボとホップ・ステップ・ジャンプまで見こされていると思うが、廃校の跡地に常勤のスタッフは何名配属する予定か。

(D者) 予定の収支計算というところは提出している。その中で常駐として社員としてつくものは最低1人。それとあと地元雇用1人というスタートになると思う。シーズン前に消防と保健所の条件を全部クリアすれば宿泊施設をオープンできる。宿泊施設をオープンできればまた常駐の人間は増えると思う。講習があるたびにインストラクターが常駐するとかそういう形になる。ある程度軌道に乗れば、オンシーズン・オフシーズン作りたくないのだから常に安定的にお客さんが来るような内容にしたり、教室の一部分を協力会社さんの出張所みたいに区分けして、ドローンの研究開発の会社、ソフトウェアの会社というところを常駐で中に入れていただく計画も考えている。

(事務局) 協力会社へのスペースは設けるという話だったが、地域の方の交流の場所、避難所としての部屋の確保はできるか。あと、校舎全体の利用がかなわない、1部屋だけを貸してほしいという方に協力会社ではないがレンタルスペースとして貸し出すことは考えているか。

(D者) 元々避難所として使うことや地域のシルバーの方がグラウンドを使っていることを事前に聞いている。その辺は皆さんと協議しながらやらせていただければと考えている。一部分だけ借りたいという企業については内容次第だが構わない。全くの異業種でもドローンに関係ない仕事はないと思っている。皆さんといろんなアイデアが出れば、一緒にあそこを中心に事業ができるかもしれない。

(事務局) 本町が進めている移住の関係で、お試しの宿泊所として安価で連泊を提供できるか。

(D者) 資料にいろいろそういうことも書いているが、柱としては宿泊型の講習施設。そういうイメージにしているが、一般の方、観光で来られる方、移住を目的とされた方が安価で何日間か滞在するというのも想定している。学校の中に泊まれるというのは私が子どもの頃は小学校の宿泊体験で泊まった記憶があるが、それ以来関わりが無い。そういう空間でなおかつ安価でできると。そのために給食室を利用して食事の提供というのも少し考えたが、自分たちで食材の提供をあげて、ご飯も地元のお米で炊いてという方がシーズン中はおもしろいかと。オフシーズンで来られる方は、外でそういうことができないということについては、地元の食材を提供していただけたら、仕出しを提供いただける業者さんと協力いただきながら、宿泊型の教習場で来られる方の食事の提供を考えていきたい。

(事務局) 自社資金とは別に補助金を想定しているが、補助金が不採択の場合の資金繰りは自社資金でまかなうのか。

(D者) 予定収支計算書の中の全部を実施するにはこれくらいだろうと逆算した資金繰りを書いている。補助金については、採択されれば何本か申し込む。それが無いことによりできないのではなく、それに代わる補助金なおかつ自社資金ということで、例えば1年目にこなすことが1年半後になるなど少しスローになるかと思うが、実施に向けていろいろ対策を考えていく。売り上げベースについても神河町のみどりのパークの数字からすると非常に少なく書いている。確実に取れるであろう数字を書いている。空飛ぶドローンだけでなく、水中ドローンの教習もやっている。すぐ横が海なので水中ドローンの活用もできるかと考えている。

(1) A者に関する意見

- ・数字が適当で財務関係に不安があったが、財務分析結果で潤沢な資金があり、お金の面は問題無い。計画内容は抽象的な表現が多く、具体性に欠ける。
- ・コンセプトが曖昧。
- ・資料、説明で抽象的な部分が多く、他の3社に比べ見劣りする。

(2) B者に関する意見

- ・資金的に途中で厳しくなったときにどうかと不安がある。内容的にはおもしろい。
- ・とても興味深い。実際〇〇でもやられているということで面白いと思う。
- ・本業が投資ということで今はよくて資金的にどうかと思うところがある。
- ・廃校利用を事前に経験し、今も運営しているということで、本業の面もあるが信頼できる。これができたら面白い。周防大島に今無い、スポーツ団体を受け入れる施設が無いからすごくいいと思う。地域のイベントやいろんな催しが叶えば、地域の方も喜ぶし、すばらしい。〇〇小学校でやっていることがここでもできるかが不安。
- ・周防大島に一番合う。計画性が現実的。なかなか厳しいところもあるが、実績があり、これが活かされれば将来地域で現実的に運営がスムーズにいくと思う。
- ・一番印象に残った。
- ・割と興味を持った。宿泊業とフードサービス、イベントとあり全部が全部やるとは限らないが興味を持った。
- ・一番記憶に残った。ただ、母体が投資会社ということで資金のことで若干不安を持っているが、何が一番いいのかということで、やはり地域の活性化と雇用のことを重視して聞いていた。その中でB者かなと思った。
- ・資金的な部分で不安はあるが非常に印象深い。
- ・おもしろい。投資会社というところが不安。

(3) C者に関する意見

- ・1年目、2年目は校舎の中をいじらないというところが気になる。一旦屋上でやってみて駄目なら撤退という可能性もある。久賀で敷地の整備もしているので本腰を入れるのかもしれない。
- ・お客さんの話を聞く限り、屋上にグランピング施設は無いという方が多い。風が強く、いいことが無い。景色はいいが、秋から冬にかけて風が相当強い。
- ・飲食の提供がほとんどないというところがどうかと思う。
- ・最初の2年間は屋上のみ、稼働も土曜日、予約が入ったときということで働く方もその日だけというようなことができるのか。イベントも年に1回、それも3年後、5年後いつになるか、かなりの長期計画ということで、すぐすぐ廃校が活用されることはないと感じた。
- ・屋上にドーム、仮設のトイレ、仮設の水回りはちょっとかなと。
- ・屋上のグランピングだけであればあとは適当、適当ではないと思うがそういうイメージを受けた。

(4) D者に関する意見

- ・内容的には言うことがない。
- ・一番印象が良かった。

- ・内容的に非常にいいと思うが、こちらに参入してくる会社のメリットが見えない。
- ・計画も資料もしっかりしていて申し分ないと思う。最新のドローンを使った企業はこれからの周防大島にも必要と思うので、選ばれなかったとしても町は関わっていくと面白いのでは。
- ・ドローンを使ってこういうふうにするのはなかなかいいことだと思う。
- ・周防大島でやる必要があるのかと思う。発注してこの会社が受注するというのであればメリットはある。途中で有人飛行を考えたいと言っていたがそれは不可能だと思う。
- ・安定感がある。

(5) その他

- ・A者とD者はドローンを使ってというところ。町の今後のスタンスによるところが大きいと思う。ドローン特区を町として取るという姿勢があるのであれば。
- ・ドローンについては知識が無いため身近に感じなかったが、今からドローンを使った防除とかいろいろな技術があるので、使えるものがあれば取り込んでいきたい。
- ・ドローンのことはわからない。
- ・ドローンの2社は森野小学校の廃校でないといけないのかという気がする。それを伴った振興策も言っていたが、学校が適しているから、ここがいいからという印象が薄かった。
- ・学校は地域の拠点施設。事務局が確認していたが、避難所や拠り所に活用するかそういう要素を説明されて、ほぼほぼ皆そういう考えがあるということで安心した。確認しながら進めてほしい。
- ・子どもたちが放課後サッカーしたりソフトボールしたりしているがそれはやっていいのか。
(事務局) 申し込みの段階でスポ少やグラウンドゴルフで使っていることを話している。今後取られた団体と直接交渉することになるが、基本的には大丈夫という話であった。
- ・町としてドローンで特区や観光開発というビジョンは今のところあるのか。
(事務局) 今現在の町の施策としては無い。将来的にそういう提案があったときにどう動くかはわからない。
- ・町の姿勢というのがドローンの場合は大きく影響する。それを進めていくというのがないと事業を思うように展開できないのではないか。
(事務局) もし町が特区、ドローンに限らずそういう思いがあった場合は、一例として和田小学校のように決定していく方法もあるが、今回は施策があったわけではなく利活用について広く求めた。そのときの条件として、地域の活性化や振興発展に貢献できる内容であること。雇用促進につながるということなので公募をかけた。

8 投票結果

- 集約した結果、当委員会としての採択案をB者とする。
- 票数はB者9票、D者3票。